

事前質問に対する回答一覧表

第 5 回十日町市総合計画審議会
 ≪前期基本計画（案） ※基本方針 3・4 に関する個別施策、重点戦略の具体施策≫

【質問事項回答】

No.	質問者	資料No.	ページ	箇所・項目等	質 問 内 容	回 答	担当課
1	加納行弘委員	1	施策29 防災対策 の推進	■現状と課題 ■施策の展開 3. 感染症に対する 備え	資料中の「感染症」とは、感染症全般又は新型インフルエンザ等パンデミックを引き起こす可能性のあるもののいずれを示すものと解釈すればよろしいかご教示願います。 後者のものとして用いているとした場合、 ・「新型コロナウイルス感染症対策に取り組んできた。感染症対策の経験やノウハウを,,,」は、「新型コロナウイルス感染症対策に取り組んできた経験やノウハウを」（■現状と課題（3ブロック目））とした方がよろしいかと考えますのでご検討願います。 ・また、「予防接種事業」は、「新型インフルエンザ等対策行動計画に基づく予防接種事業」（■施策の展開、3 感染症に対する備え【主要事業】）とした方がよろしいかと考えますのでご検討願います。	・資料中の「感染症」とは、新型インフルエンザ等パンデミックを引き起こす可能性のあるものを指します。 ・ご指摘の通り修正します。 ・パンデミックへの対応は「新型インフルエンザ等対策行動計画」に定めており、「予防接種」は計画の中の項目の一つです。加えて、パンデミックに備えた予防接種事業は、恒常的に行われる事業でないことから、主要事業の記載を「新型インフルエンザ等対策行動計画の点検と実行力強化」に改めます。	防災安全課
2	加納行弘委員	1	施策29 防災対策 の推進	■施策の展開 6. 防災・減災、国土強靱化の取組の推進	「河川堤防の浸透対策」とは、現計画に記載はありませんが、治水事業の主事業として「浸透対策」を位置付けているのかご教示願います。 ・複数事業あるうちの一例として「浸透対策」を掲げているのであれば、一般に分かりやすい「粘り強い堤防強化」や単に「河川改修」としてもよろしいのではと考えますのでご検討願います。	施策の展開6②「河川堤防の浸透対策」を「河川改修」に修正します。	防災安全課 建設課
3	川崎正男委員	1	施策29 防災対策 の推進	グラフ	気象庁HPから引用されている表についてです。気象庁のHPでは「1 時間降水量 1 0 0 mm以上の年間発生回数」となっていますが、グラフの表題は「5 0 mm以上」となっています。1 0 0 mmの間違いではないかと思うのですがいかがでしょうか。	ご指摘の通り修正します。	防災安全課
4	川崎正男委員	1	施策32 ゼロカー ボンシ ティ・資 源循環型 社会の推 進		「ゼロカーボンシティ」「GX*（グリーントランスフォーメーション）」という用語の意味するところは大体分かるのですが、正確な意味は調べないと分かりませんでした。注釈をつけていただくことは可能でしょうか。	以下のとおり、用語を解説します。 「ゼロカーボンシティ」 2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を公表した地方自治体を「ゼロカーボンシティ」としています。十日町市は、令和 2（2020）年 6 月 8 日に表明。 「G X（グリーントランスフォーメーション）」 エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素（温室効果ガスの排出削減）の同時実現に向けた社会変革の取組のこと。 なお、今後の編成作業において、巻末に資料編として用語解説を記載します。	環境衛生課
5	川崎正男委員	1	施策32 ゼロカー ボンシ ティ・資 源循環型 社会の推 進	■現状と課題	現状と課題の 4 つ目の「・」に、「十日町市海老最終処分」とあります。これは「十日町市海老最終処分場」の誤記ではないでしょうか。	誤記でしたので、「十日町市海老最終処分場」と修正します。	環境衛生課

No.	質問者	資料No.	ページ	箇所・項目等	質 問 内 容	回 答	担当課
6	加納行弘委員	1	施策34 水資源の 確保・活用	■まちづくり指標	水辺空間の利用者数に係る目標値について、現計画における目標値（R7年度）3,120人に対し、次期計画案記載の現状値（R6年度）は14,141人と現計画上の目標値を大きく上回っています。目標を大きく上回った理由及び利用者数値の計上方法の変更の有無等についてご教示願います。	現計画の水辺空間の利用者数の目標値を上回った理由は、清津川フレッシュパークのキャンプおよび公園の利用者数を追加したためです。 現計画の利用者数の積算対象 ①信濃川ラフティング、②サケ稚魚放流、③清津川川っぺり音楽祭、④清津川さかなまつり 上記に加え、次期計画案で追加する積算対象 ⑤清津川フレッシュパークのキャンプおよび公園	建設課
7	加納行弘委員	1	施策35 地域の発展と安全・安心につながる道づくりの推進	■現状と課題 ■施策の展開 1. 地域高規格道路 「上越魚沼地域振興快速道路」整備の促進	「■現状と課題」では区間を「北鐙坂～松代間の事業化を進め…」とある一方、「■施策の展開」では「安塚～松代間の早期事業化について…」と記載されています。どちらの区間を想定しているのかご教示願います。 仮に調査区間を包括したいとの意図であれば、上越魚沼地域振興快速道路建設促進期成同盟会要望との整合性を加味し、未着工区間の調査推進及び早期着工を要望する区間「安塚～北鐙坂」との表現で統一することがよろしいのではと考えますので、ご検討願います。	それぞれの区間で調査状況が異なることから、2区間で記載しておりましたが、ご指摘のとおり、調査区間を包括し、「■現状と課題」、「■施策の展開」とともに、「安塚～北鐙坂」に区間を統一し、修正します。	建設課
8	加納行弘委員	1	施策35 地域の発展と安全・安心につながる道づくりの推進	■まちづくり指標	道路改良済延長の目標値について、「H27からの累計値」（現計画）から「のべ延長」（次期計画案）へと変更したものと理解してよろしいかご教示願います。また「のべ延長」は国・県道と市道の合計値であるかについてもご教示願います。 ・道路整備（改良）については、次期計画案の見直しの通り、のべ延長で管理した方が、全体像が見え目標としやすいと考えます。国県道の整備は関係機関に働きかけけるものとし、市道については自ら整備を推進するとの施策展開とされているため、目標値は国県道と市道の合計値を示すものと考えます。この点につき、歩道整備延長には「（のべ延長）」の記載がありますので、道路改良済延長は「のべ延長」ではないのかとの疑義が生じかねませんので記載方法についてご検討願います。	次期総合計画、まちづくり目標「道路改良済延長」については、改良済のべ延長へ変更しており、国・県道を含まない市道のみの数値となります。また、「歩道整備延長」と数値根拠の明確化を図るため「（道路台帳延長）」を追記します。	建設課
9	川崎正男委員	1	施策35 地域の発展と安全・安心につながる道づくりの推進		「エッセンシャルワーカー＊」という表記がありますが、注釈がかかれていません。記入漏れでしょうか。また、「ラストワンマイル」に注釈を入れていただくことは可能でしょうか。	以下のとおり、用語を解説します。 「エッセンシャルワーカー」 人々の基本的な生活やインフラなどの維持に必要不可欠な職業の従事者 「ラストワンマイル」 最後の区間 なお、今後の編成作業において、巻末に資料編として用語解説を記載します。	建設課
10	加納行弘委員	1	施策38 安心して暮らせる住宅・公園等の整備推進	■施策の方針 ■現状と課題 ■施策の展開	「■施策の方針」で「宅地の供給…を推進する」とある一方、「■現状と課題」及び「■施策の展開」では「供給」についての記載がありません。現計画では住宅や宅地の供給促進の施策の展開をしていましたが、次期計画案では供給についての施策は記載されていません。方針に「供給」を記載したことの理由をご教示願います。 ・施策展開として計画がないようであれば、整合性の観点から、「宅地の供給」に係る記載の削除をご検討願います。	ご指摘のとおり、整合性の観点から削除します。	都市計画課
11	加納行弘委員	1	施策40 持続可能な除雪体制の確保	■現状と課題 ■まちづくり指標	流雪溝整備は各地区で概ね70%弱であり、今後も整備の進捗を図る旨、現状と課題に記載がある一方で、現計画では主要事業に位置付けられている「流雪溝整備事業」が次期計画案における主要事業では削除されています。その理由についてご教示願います。	記載が漏れていました。「流雪溝整備事業」を主要事業に追加します。	建設課

No.	質問者	資料No.	ページ	箇所・項目等	質 問 内 容	回 答	担当課
12	加納行弘委員	1	施策40 持続可能な除雪体制の確保	■施策の展開 1. 道路除雪の推進	効率的な除雪のために「大雪は災害」と捉え、特に短期間に集中的な降雪がある場合には市民や市内事業者に対して、不要不急の外出を控えていただく、やむを得ず外出される際には時間に余裕を持った行動をお願いするなど、災害としての対応を市全体で共有し備えることについて、理解と協力を呼び掛ける取り組みも必要と考えますので、「■施策の展開1④」を新設するなどご検討願います。 ・併せて、除雪オペレータの高齢化や新たな担い手の不足が進行しており、将来的な除雪体制の維持に対する懸念が生じています。このような状況を踏まえ、今一度、公助へのご協力（自宅前の雪の各戸処理、路上駐車禁止・庭木の適正管理・除雪車への近接回避など）について周知を図るとともに、将来に向けて持続可能かつ円滑な道路除雪の実現に向けた理解と協力を呼び掛ける取り組みについても、前述同様にご検討願います。	広域交通に対して、本市の冬期降雪状況を鑑みると「不要不急の外出を控える」呼びかけについては、道路管理者から呼びかけることが適当であると考えています。 公助へのご協力については、これまでも市報・防災無線などにより周知・呼びかけを恒常的に行っており、今後も継続して取り組んでいきます。 なお、除雪オペレータの担い手不足など、将来の除雪体制の維持については、「■施策の展開」1の②で取り組みを示しています。	建設課
13	川崎正男委員	1	施策40 持続可能な除雪体制の確保	■まちづくり指標	「まちづくり指標」で、流雪溝整備延長（十日町・川西地域）の現状地と目標値が距離で示されています。整備率にすると何パーセントになるのでしょうか。	現整備計画における全体計画延長は102,15kmであることから、整備率は下記のとおりとなります。 現状値：86.5% 目標値：88.6%	建設課
14	加納行弘委員	3	P13, 15	2 KPI（重要業績評価指標）、市内旅行消費単価が50,000円以上の人の割合 [p. 13] 3 戦略3の具体的な施策、①力強い産業と雇用の場の確保、観光産業の推進 [p. 15]	K P I 達成のためには戦略として掲げる「上質な滞在環境の整備」支援や「高付加価値化」による消費単価の向上の他、消費単価の高い市内宿泊率を向上させる取組も必要ではないかと考えられます。そこで、市内宿泊者を増加させることを施策として検討されておりますか、また検討されている場合はその内容についてご教示願います。	KPIの50,000円は宿泊費も含めて設定した数値であるため、達成には市内の宿泊率向上に向けた取り組みも重要になります。本計画では、「施策14」において滞在型観光の推進に向けたコンテンツ開発支援を、「施策15」では地域資源を活用した商品・サービスの開発、受け入れ施設の充実、およびインバウンド受け入れ体制の構築支援を掲げています。これらの取り組みを通じて、市内宿泊者数の増加と市内消費単価の向上を目指していきたいと考えています。	文化観光課
15	加納行弘委員	3	P12, 15, 16, 17	1 基本的方向（基本構想）③人材の確保・育成 [p. 12] 3 戦略3の具合的な施策②活力ある農林業の推進、経営基盤の強化・生産基盤の整備 [p. 15] 他	資料中「担い手の確保・育成」（p. 12）、「担い手の育成・確保」（p. 15, 16, 17）と「確保」「育成」の語順が異なる使いかたがありますが、使い分けをされている意図についてご教示願います。使い分けをする意図がない場合は、どちらかに統一された方がよろしいかと考えます。	ご指摘のとおり統一します。	企画政策課